

高校や中学の部活動で、選手や監督が目指すべきものは何だろう。もちろん強さの追求が目標の一つであることに疑いの余地はない。勝利を求めて選手たちは練習に励み、時には監督の怒声を浴びながら、努力を続けているのだと思う。しかし、取材を続けていると気付くことがある。強い選手だけが、素晴らしい選手ではないということだ。取材に行くと、名前も知らない私たちに大きな声であいさつしてくれる選手がいる。試合に出られなくて

## 精神力、人間力の重要さ

運動部 副島 宏城

### スポーツ



も、運営の補助員として黙々と働く選手がいる。そんな場面に出合った時に、すがすがしい気持ちになる。先日、勝てない時期が長く続いた、ある高校の指導者が

勝った負けただけじゃない。普段の生活や、試合の始まる前、終わった後にどうしてるかが大事なんだと思う」と。「何をいまして」と言う方も多いだろう。だが、技術や強さ以外の部分の重要性が今、どこか薄れてきているように感じられてならない。私たちの目は、どうしても勝者にいきがちだ。だが、試合に勝てなくても、中学3年間、高校3年間で、厳しさの中から「人間としての強さ」を身に付けることができたなら、それもまた勝利ではないか。